

---

# 俺らにきっと、愛はない

忍野八雲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺らにきっと、愛はない

### 【Zコード】

Z3342BA

### 【作者名】

忍野八雲

### 【あらすじ】

恋愛未満友情以上の物語。

一応、サイトでは人気が出てたみたい。

腐女子間

「ええと、お願い。キス、しよう?」

「ハアー?」

眼鏡がずり落ちた。

俺、佐々木 利史はこのチビ（男）こと祐太と付き合っている。ああ、俺も男だ。

まず、付き合っているとこいつで疑問を持つかもしれないが、これには事情がある。

数年前。

俺は普通の中学男子として祐太とつるんでいた。

別にどこの奴らとも変わらない馬鹿なことしてた、はずだ。

だが、俺らが卒業する時、急にこいつが告ってきた。

……初めは冗談だと思う。なんとなく、幼馴染に告られた奴とかの心境だなど、思つたりもした。

だが、このチビはマジだったのだ。何度も話しても、

「利史がスキ」

と繰り返す。

泣きそうになつたり、ヤケになつて叫んだり、結局そんな態度に俺はとりあえず半分しようがなく首を縦に振つた。

そりやあ俺は女子が好きだ。少し前までは、隣のクラスの安藤のことが好きだつたりもした。まあ、卒業前田に付き合つていたと知つても、対して衝撃がなかつたところを見ると大して好きだつたわけでもないようだが。

それでも、女子が好きなのだ！！

そんな俺がなぜOKしたかといつと、ここでいいえと言つたらこことの友情がなくなる気がしたのだ。

なかなか会えるもんじやない良い奴だつたし、こいつが適当な女子のことを好きになるまで付き合つてやるかみたいな、連れシヨンに行くよつなレベルだつたんだ。

だが、高校2年夏現在になつても誰も現れなかつたようで、そらには、俺自身もホモホモ言われるようになり、男女ともに出会いもクソもなくなつてしまつたようだつた。

そんなときこの発言。俺はメガネの位置をなしつつ悩んだ。外国とかなら挨拶だし別にいいだろ、なんて安直な感じでいくと後戻りはできない。

正直孫の顔まで見たいのだ、一応。だが、ここでいいえと言えば前向きにとれば、焦らしているとかにも見えなくはないが最悪振られる？、といつことになる。

いいのか、これでいいのか！？なんて、今にもポッケからカードが出すやうだよ！

そんな俺を見て何か思つたのか、祐太は口を開いた。

「べ、別にいいからね？もう少し後でもいいし、それに、そこまで  
したいとか思つてるわけでもないし…」

こいつが女子だったらいいのに、と祐太の俯き気味の中性的な顔が  
俺にそう考えよう仕向ける。

ハア  
……

「やれやれ」

俺は自分に言つ。

……しあがなくだ。こいつはあくまで友達で、これは友情の中に  
含まれるものだ。

第一、こいつのがつかりした顔とか泣いてる顔が見たくない。

「祐太、顔上げろよ」

俺は祐太との身長含め40センチぐらいの差を少し焦らすようにむ  
づくりと減らしながら、コイツの紅潮しつつ目をつぶつてる顔を見  
て、

（やべ、可愛いな）

とか思いながら、俺と祐太はいつもより密接に近づいた。

それから……。

「祐太、質問だ。なんで俺に告つたんだ?」

「ええと……。好き、だから?」

「バカ、そういうじやなくて。もっと明確なもんを聞いてんだよ」

「うーん、利史しかいないとか思ったから。自分のことを受け入れてくれたり、利史のやることを自分はなんでも受け入れられるとか、思つたからだと思つよ?」

「そうかい

俺達は慣れた感じで……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3342ba/>

---

俺らにきっと、愛はない

2012年1月8日18時47分発行